

科目名	権利擁護と成年後見制度					単位	2.0
担当教員	早川 秋子						
授業形態	講義	開講期間	後期	配当年次	2	授業番号	5412

●授業のテーマ

権利擁護と成年後見制度－有資格者として活動するために必要な法知識を学ぶ

●到達目標

社会福祉士・精神保健福祉士として活動するために必要な法知識を修得することを目的とする。

●学習内容(授業概要)

社会福祉士・精神保健福祉士等の福祉関係者が相談援助活動を行うためには、関係する法の理解が不可欠である。これらの法は段階的構造をとっており、憲法を頂点に、その下に基本法としての民法・行政法があり、さらにその下に成年後見制度がある。これら各法の基本を理解するとともに、具体的にどのような場面で各法が関わるのかを整理し、特に成年後見制度の制度設計と現状についての修得を目的とする。

さらに、成年後見制度の周辺部分として、高齢者や障害のある人への虐待や具体的な権利侵害等の実態を知り、それを踏まえた防止策・支援策の修得を目的とする。

●学習内容(授業計画)

＜後期＞

1. 権利擁護と相談援助の意義
2. 基本的人権と権利擁護
3. 権利擁護と民法(1) 法律行為
4. 権利擁護と民法(2) 親族
5. 行政法と権利擁護
6. 社会福祉関連法と権利擁護
7. 成年後見制度の概要(1) 法定後見制度
8. 成年後見制度の概要(2) 親権と扶養
9. 成年後見制度の概要(3) 任意後見制度
10. 日常生活自立支援事業・成年後見制度利用支援事業の概要
11. 権利擁護のマンパワー 専門職・市民後見人
12. 権利擁護と相談援助活動
13. 事例研究(1)法定後見事例 相続問題など
14. 事例研究(2)ホームレス・アルコール依存など
15. 事例研究(3)経済問題・消費者対策 今後の展望とまとめ

●準備学習・事後学習の内容

各回の講義内容を事前・事後に充分見直し、テーマに関連した情報収集を心がける。

●成績評価方法・基準

筆記試験 80% 講義中の発言(参画度) 20%
(筆記試験には、自筆ノートの持ち込みを許可する)

●テキスト（必携）

≪No.1.≫書籍名：法学入門、著者名：田中敦子・大野正博編、出版社：成文堂

●参考文献／その他

講義の中で適宜紹介する。

成年後見制度の実態について包括的に学習したい人は、

福田幸夫・森長秀編『権利擁護と成年後見制度』（社会福祉士シリーズ）弘文堂を推薦する。

他に、市民後見人について大阪市における先駆的取り組みを紹介した

大阪市成年後見支援センター監修 岩間伸之他編『市民後見人の理念と実際』中央法規、法手続きの実態については、

原田正誉監修『成年後見制度の法律と手続き』三修社

などが参考になる。

●履修上の注意

専門的な内容の積み重ねになりますので、欠席しないように気をつけて下さい。